

美羽

とぶ

№19

25 頁, 1980

百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYÖDANKAI

オオヒカゲの幼虫探索記

嵯峨井孝郎・諸道 秀人

嵯峨井・諸道は石川県のオオヒカゲの実態を探るべく漸進として、1980.5.4(日)、富山県の大産地である高岡市石堤・西礪波郷福徳町鞍馬寺へ調査のため足を運んだ。とかく石川県の連中は、富山県を侵略し過ぎるといわれながらも、大産地の実情をよく実見したうえで、わが石川県を調査するという方法をとらざるを得なかった。

オオヒカゲの富山県における記録は、小矢部市～福徳町～高岡市～木見市*1)にかけての山地帯に広範囲に分布し、その分布域は各種スゲ類の自生と密接な関係にあり、特に上産地には農閑期におけるスゲがサ造りの原料として多用されている。カサスゲが木田の縁や民家脇のところどころに残存し、いずれの産地も、スゲ類＝オオヒカゲ幼虫、といった具合で、かなり多産するようである。成虫の発生は筆者らは、確認していないので言明はできないが、7月中旬～9月にかけてのかなり長期間にわたる模様である。

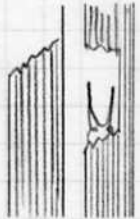
オオヒカゲの調査順序としては、次の方法をとった。

1. スゲ類の自生地を捜す
2. オオヒカゲ幼虫等によるスゲの食痕捜し
3. 石川県内過去の記録地における、上記1・2の調査。

いざ調査に着手してみると、なかなか自おてのスゲ類が見つからず右柱左柱すること30分、諸道によりようやく〇〇神社(神社名を忘れてしまった)周辺の民家内の庭より発見(食草名は不明)5～6頭の3令幼虫を採集した。

その後、栽培種のカサスゲの木田を数枚発見し調査したが、病虫害予防の薬品を散布しており、幼虫・食痕ともなく、近隣の休耕田の自生のカサスゲ(もとは栽培していたものの残存自生)より数頭の幼虫を発見することができた。

オオヒカゲ幼虫の探索方法はいたって簡単である。食草のスゲの葉先を斜めに切り落したような、特徴的な食痕をつくり、葉の先端の方を向いて静止し歩行する時は頭部を持ち上げ、左右に振りながら歩く特徴がある。このような食痕やフンを見つければ本種は、すこぶる見つけ易い。



このような手順で、数箇所調査し合計4~50頭のオオヒカゲ(3令~終令)幼虫を得た。(概略図上の×印地点で幼虫採集)

帰途は、福岡町三日市~川原島~道番~土屋~向田~上野~小矢部市田川のコースで金沢へ向ったが、これらの地区にも点々と栽培用のカサスゲが残存しているのを目撃できることから、産地は連続的であると思われる。



一高岡市石堤周辺におけるオオヒカゲ採集ポイント

富山県内での調査の好成績に気をよくした、筆者らはその足で、金沢での過去の産地(金沢市巾尾, 1970-III-4 谷崎誠井採集)へずっとび、ここでも10数頭の本種3令~終令幼虫を確認することができた。同地における本種の生息環境は、高岡市石堤のそれとは少々異なりV字型のほんのかさな谷あいの産地に密生しているスゲ(種名は不明)に点々と見られた。

しかし、嵯峨井が成虫採集をした10年前に比べて現在の生息範囲は、国道359号線の改良工事により1/3以下にせばめられていたこと

から、筆者らは中尾産のオオヒカゲの前途に憂慮を感ずるのである。
→ 採集した幼虫は、富山県産は諸道が金沢産については嶋根井が飼育した。飼育結果は高岡市石堤産、♂♂ 3羽、福岡市鞍馬寺産、♂♂ 2羽、金沢市中尾産は♂♂ 3羽が羽化した。飼育標本は嶋根井・吉村が保管している。

なお、幼虫数が多かったため、途中迄の記録を省いたため、たいへんずさんな飼育管理となり、公表が無理なので飼育経過についての記録は省略する。

参考文献

XI. 武藤 明 (1971) 石川県の蝶相 石川虫学会特別報告2

能登でオオヒカゲ幼虫を採集

松井 正人

1980年5月19日、鹿島郡鳥屋町馬場原でオオヒカゲの幼虫を採集したので報告する。

発生地は、一番山側の休耕田で、雑木林にはさまれてはいるが日当りは良い。巾10m、長さ30m位の広さがあり、スゲがびっしり生えている。(カサスゲ?)

足下は湿地ではなく、ズックばきで採集ができた。捜したのは、ほんの一角であるが、終令幼虫3exs 終令前休眠幼虫5exsを約20分位で採集することができた。よく捜せばもっと見つかるであろう。

採集法としては、まずおおまかに食痕を捜し、食痕を見つけたらその付近をよく捜せばよい。(採集法および食痕の見分け方などは、前日、嶋根井・諸道両氏に実物を見せてもらいながら、ていねいに教えてもらっていったので、すずわかった。オオヒカゲ幼虫を探りたい人は、両氏におたのみした方がよろしいです)

幼虫は葉裏にいて、頭も先端へ向け葉脈にそって静止していた。終令幼虫は先端の方に、休眠幼虫は葉の下の方にいた。

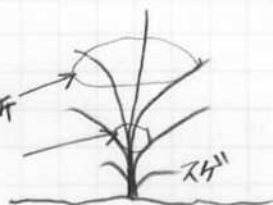
また、幼虫はわりと動くらしく、1株に食痕がたくさんあるのだが、1株には1exしかいなかった。

(1株とは、スゲ1本が10本位かたま



つたもの) 幼虫のいる葉は、食痕のある
 葉には関係はなかった。

終令幼虫の静止個所
 休眠幼虫の "



口能登～中能登にかけてのオオヒカゲ調査

松井 正人・嵯峨井 淳郎

本年になって、国道・嵯峨井により金沢市中尾(旧森本町)にて
 10頭、松井により鹿島郡島田町馬場寮にて8頭のオオヒカゲ幼虫が
 採集された。

これを機会に、能登方面での幼虫確認をやるうということ、筆
 者である、松井・嵯峨井は、5月25日、羽咋市～志賀町～富来町～
 穴水町～門前町～中島町の探索ルートでオオヒカゲの幼虫確認調査
 を実施した。文献*によれば能登方面に点々と産地・成虫採集記
 録があるようであるが、明確な採集記録地点・採集年月日が不明の
 のが多く、成虫採集が比較的おつかしいとされる本種については
 、幼虫採集による確認が手とり早いと判断される訳である。

調査ポイントとして、市町村最底/個所(多い個所では3～4個
 所)を調査対象とし最初から調査地を逐次踏査したのではなく、自
 家用車により国道・県道・市町



1980-V-25 石川県羽咋市富来町 松井正人撮影

村道・私道等を走行中に絶好の
 生息環境と思われる地点を見つ
 けてその上で調査したものであ
 る。なお田鶴沢町～七尾市～鹿
 島町においても生息調査の必要
 がある訳であるが、当日予定し
 ていたにもかかわらず、門前町
 穴水町～中島町を走行中に降雨
 にあい、中島町あたりで本降り
 となったためと不測の事態発生
 によりやむなく調査を中止した
 ののである。

しかし、中島町笠師については、地名からして往時は農業用
 スガがサ造りの芋美があるよう
 な感じがしたため、降雨中にも

外で、単にヒカンアオイ自生を確認したにとどめる。

	調査地	遊歩記録	餌の有無	採集地数	その他の特徴	採集地の環境
A	林布寺岩町	有	有	3	ヒヤノヒヤ	湿地に自生する。スゲSP 付随にゴキブリ場あり
B	林布寺岩町	無	無	—	—	
C	// 志賀町南谷	無	有	10	ヒヤノヒヤ	2 ^m ×3 ^m の林間田に自生 するスゲSP。刈り明かした
D	// 志賀町高峯	無	無	—	—	
E	// 志賀町	無	無	—	—	ヒカンアオイ採集
F	お作郡富永町楚和	無	有	7	—	休耕田内の水田スゲSP 小豆畑あり。アヒン多し。
G	鳳凰郡川崎越渡	無	有	4	—	藪や田舎。カササギ等のゴ キブリ。湿地内のスゲSP
H	// 川崎	無	有	—	—	車道脇。スゲSP
I	鳳凰郡門前町	無	有	—	—	" "
J	// 門前町山尾青	無	有	6	—	広く明るい休耕田。刈りと 乾燥地帯。虫に注意
K	鹿島郡中島町笠師	無	有	3	—	民家の土蔵脇。竹林内の カササギ?

-参考文献-

1. 能登半島輪留付近の虫葉 輪留者校生物班
新昆虫 4(10) 1951
2. 石川県産蝶類目録 小坂徹 1954
3. 石動山の採集 石田俊彦
ヒコリ 4:15 1957
4. 石川県の虫葉 武藤明
ヒコリ 6: 1958
5. 石川県輪留町周辺の蝶類について 白若菜朝
1967.
6. 七尾付近の虫葉類 (七尾歴史資料集 4) 松枝章
1970.
7. 石川県のクワに関する新資料 武藤明
生物研究 XV. 1.2:20 1971
8. 石川県の蝶相 武藤明
石川むしの会特別報告 2:11 1971.
9. 珠洲市の動物 (珠洲市史 1) 松枝章
1976.

オオヒカゲ飼育結果

松井 正人

今度、初めてオオヒカゲの幼虫を採集し、4産地のオオヒカゲを飼育した。終令幼虫が多かったにもかかわらず、寄生が1頭も出ず幸いだった。しかしほとんどの羽化個体が、左右不対称の羽化不全だったのにはまいった。

下記は飼育結果である。



1980-11-25 羽化.

産.

産地	採集日	羽化日(水)	蛹期(×2)	個体
鹿児島県薩摩郡馬場原	1980-V-19	6月 15-17-18	12-13-13	2♂♂
〃	〃	〃 16-18-22	12-13-14	6♀♀
熊本県葦原町一宮	1980-V-25	〃 -13-	-13-	1♂
〃	〃	〃 17-17-17	12-13-13	2♀♀
熊本県葦原町楚和	〃	〃 -17-	-12-	1♂
〃	〃	〃 20-23-27	12-13-15	5♀♀
鹿児島県川内町山見青	〃	〃 18-22-28	12-12-13	3♂♂
〃	〃	〃 25-25-25	12-13-13	2♀♀
合計		6月 13-18-28	12-12-13	7♂♂

子計	♂ 16-21-27	12-13-15	15♀♀
合計	♂ 13-20-28	12-13-15	22 exs

- *1. 個体による 初日-平均-終日 を示す
*2. 個体による 最短-平均-最長 を示す

スゲよりヒカゲチョウ幼虫を採集す

嵯峨井淳郎

ヒカゲチョウ *Lethe sicelis* は一般にタケ科のメダケ・クマザサ、イネ科のススキ類等を常食としていようであるが、金沢市中尾にて、スゲ S.p. よりオオヒカゲ幼虫を採集した際に同じスゲより、本種を1頭採集したので報告する。採集後もスゲで飼育した。

なお過去に同地にて、本種成虫を採集したことがあるのであわせて発表する。

この報告は、諸道秀人氏により発表を勧められた。諸道氏に謝意を表します。

1980-V-4 金沢市中尾 1 ex 幼虫 嵯峨井淳
(1980-VI-21 15羽化)
1970-VII-2 " 1 ♀ 嵯峨井淳

石川県産オオヒカゲに関する文献一覧

嵯峨井淳郎

筆者が所持している石川県産蝶に関する文献類よりオオヒカゲに関するもののみを抜萃して見た。各々の内容を簡記し、筆者の所見をつけ加えてある。御意見等は、"報誌"上に発表されたし。

- 能登半島(輪島附近)の蝶 輪島高校生物部 新昆虫 Vol.4-No.10(1951)
採集年月 採集者名等詳細データなし。主として輪島岬高川山及びその附近。
- 石川県の蝶相について(予報) 小坂 徹 石川県生物学会誌 2(1) 1952
(目録) オオヒカゲ 山地性で普通に採集されたとある。
概説には、新埦、長野県に産地が極限されているらしいオオヒカゲは、石川県には多産する事からして産地が局限されているとも思えない。と述べている。
- 石川県の蝶相について 川坂 徹 1952

本県に於ては能登半島共に比較的多産する外からして産地が局限せず、とつと広い分布を見せるものと考えられる。即ち、富山県に於ても記録があることからでも考えられる。としている。

4. 金沢を中心とした石川県の蝶 小倉住夫 新昆虫VOL7-NO12:30~31 (1953)
オオヒカゲについては、3項の小坂氏の発表に対し、小倉氏の採集結果からして、産するとしても稀なものか、又は局限地域に多産するのではないかと考えられる。と記述しているが、データはない。
5. 石川県産蝶類目録 小坂 徹 (1954)
佐賀の分布地、能登の分布地に合せて産地をあげ、前者に鶴来町・内川村・鳥越村・西谷村(現在は)、後者に田鶴沢町・輪島町(現在の輪島市)・浦上村(現在の)をあげてある。しかし採集年月日・採集者名の記述はない。小坂氏自身が附帯している(?)採集記録にXモ入っているのか否か?
6. 石川県における蝶相考察 小坂 徹 新昆虫VOL7-NO.10:14~17(1954)
オオヒカゲは、前記群馬県の小倉氏に引いては「稀に分布する」とは言及したが、筆者の調査では局限地域に比較的普通に産することが考察されたと反論している。このことから、小坂氏には何らかの基礎資料と成るものがあることがわかった。
7. 石動山の採集 石田 俊彦 とくしげち 4:15 (1957)
石動山(鹿島郡鹿島町)の中腹から頂上にかけてオオヒカゲ他、22種の蝶が道バタで採集できたとある。詳細データはなし。
8. 石川県の蝶(従来の記録及び今後調査すべき問題を中心として) 武藤 明 とくしげち 6: (1958)
鶴来町・内川村・鳥越村・西谷村・田鶴沢町・輪島・浦上村があげてあり、(いずれも小坂氏(1954)の引用によるもの)、局限地域に普通に産する(小坂氏(1954)新昆虫7(10):14)というが、筆者としては確実な記録と標本は石動山のものを知らぬとして、小坂氏の論文に対し疑問視している旨報告している。
9. 石川県旧輪島町周辺に産する蝶類について 日吉芳朗 (1967)
旧輪島町産として資料60種の蝶をあげ、オオヒカゲについては、個体数が少ないよと筆者により、一本松公園(1964-VI-25)1頭、輪島高校校舎内(1965-VI-16)1頭を得たと記録している。石川県産オオヒカゲのはっきりしたデータ付きの記録はこれが最初と思われる。
10. 七尾付近の蝶類—七尾校資料篇・オ4巻— 松枝 章 (1970)
現在、石川県下でも七尾市周辺のみにしか知られていない珍しい種類では、オオヒカゲがあり、これは石動山山塊の大きな特徴と云える。しかし本種はセリソウ科の草本

を食料とするので、今後その他の地方の恒山から発見される可能性が強いと思われる。と
している。七種産全体として62種の蝶をあげている。

11. 石川県の予ヨウに関する新資料 武藤 明 動物研究 27:1-2:20 (1971)

能登地方には稀に産する(輪島市国近や國至郡田野町、その他)。加賀地方の
恒山や山地帯にも発生する事が判明した。(金沢市白尾や森本など)としている。
この資料に出てくる森本とは金沢市白尾(旧森本)のことで、嶺根伊井のデータの
聞き込みによる発表である。

12. 石川県の蝶相 武藤 明 石川県の会報別報告 2:11 (1971)

本報告のオオヒカゲの項には、やや珍しい種だが金沢市白尾や朝日町などでしか
能登の石川山や輪島市国近、田野にも発生する。としている。

この報告は、現在(1980)のとして一応(?)石川県産蝶類の分布についての集大成
と見られるが、8項と同称、北坂薫氏によるデータはすべて問題外視して(オオヒカ
ゲに限らず)いるところがあつて一考を要する。

前述の調査結果からは、『有限地域に比較的普通に産する』というコメントが妥当
であると思われる。加賀地方における調査結果(未完了)により、北坂氏のデータを採
用しなければならぬ。
(如何)

13. 珠洲市の動物—石川県動物史— 松枝 章 (1976)

須田一次氏の記録を含めて、8科63種をあげられている。オオヒカゲ(恒山)に産す
るはいるが、詳細データはあげられていない。

以上筆者の手元にある文献類よりオオヒカゲに関するものをピックアップ
してみた。冒頭に記したように、御異議・御意見があれば、どし
どし誌上に発表して下さい。またこれ以外の文献を知る方があれば
それらについての発表もどうぞ。

能登オオヒカゲ採集記

ヨコシマミダラセセリ

オオヒカゲと言えば、石川県では珍しい種類とされてきた。1980年6月嶺根伊
井・吉道グループは、オオヒカゲ幼虫採集のさきかたとしてまずは確実にオオヒカゲ
幼虫の採れる恒山の某所へ(石川県では採れないで)出かけたのである。オ
オヒカゲの幼虫はわりと簡単に採れるのである。たしかにオオヒカゲ幼虫を採集し
これならば、金沢の過去の記録地へも出向いたのである。しかし幼虫は、採集
したのであるが、採れたのである。(石川県初と思われる) 後日、これを聞きつけた
松井氏は、やはり自分も、スゲの見分け方、食糧のあり方など嶺根伊井・吉道
グループに聞き回ったのである。それから数日後、松井氏は能登の山奥でオオヒカゲ

幼虫を探ってきたのである。調子づいた松井氏は言った。今度の日曜日(5月25日)能登へ調査に(ほんとうは採集に)行こう。しかしながら伺調したのは嶺松井氏ひとりであった。

5月25日(天気予報は雨)に予報も存人のその、幼虫採集に南は関係ないと、2人はシヨシヨと能登へ能登へと流れたのである。最初に調査(あえて調査)したのは、これ林邊の記録地、気多大社付近、存人なくスゲ(カンスゲ?)は見つかったのだが、用心の幼虫はこれたすくに見つかった。この時、松井氏のゴム長はあまのうれいに大粒の泥をボロボロこぼし、おかげで松井氏の足はどろどろになってしまった。

刺繍直地点で成功も納めさらに奥へと流れたのである。2ヶ所目はスゲを見つけられなかったで、カンスゲを抜いて来たと言うから恐い限りである。3ヶ所目は、嶺松井氏の目が木田脇にスゲがあるのを車の中から鋭く見つけ、探した所、幼虫はバタバタに付いていた。

その後、2ヶ所目で探したが、スゲは見つけられなかった。しかしそこで松井氏はこともあろうにカンアオイ(ヒカンアオイ?)を見つけてしまった。次ヶ所はガタボコ砂利道で土塵りがモフモフ上り、気温もグングン上り、エアコンのきいた車から降りるのがとどかくなり、スゲはないことになって次の地点へ。

ここにもオインソーなスゲはないと松井氏はあきらめ顔でマムシと遊んでいた。嶺松井氏はあきらめきれずに、そこにあつた、貧弱なマムシなヒロヒロスゲを探していた。しかし存人と、存人と、ヒロヒロスゲをオヒカゲが食べていたのである。ここでは、今までとはまるで違う2種類のスゲ(ヒロスゲ、カンスゲ)を食べているのである。それからがたいていである。車をいくら走らせ、アッスゲだ、オッスゲだ、と車を止めるのである。

しかし、ほとんどはスカ、ハズレであった。それでも穴水で1ヶ所、門前で1ヶ所産地を見つけたのである。

門前で事件が起きた。両氏がスゲ原(カンスゲ?)でオヒカゲを探していたところ、両氏の回りになやらワンワンとまわりつづてきた。犬がそばにいたけれど犬ではない。何やらハエのようなものである。

サダレハキだった松井氏は、6、7発足をかまれ、カユイ、カユイと言いつつながら、幼虫を探していたが、そううち、手、腕、顔までかまれたのでいたたまれなくなり出した。(ホーホー言いつつながら)

嶺松井氏はいっこうにさされず、雄心とひき上げてきた。車の中では松井氏の足、手、顔が大きくふくれあがった。松井氏はカユイカユイと言いつつ車を走らせた。30分経過、松井氏は腕のシビレ、頭痛をうたえ、鼻をズルズルさせ、足をボリボリかきむしり、やがてセキを始めた。

雨が降りはじめ、何だか車の動きに不安を感じ始めた頃、氏は車を止めた。1時間程眠つたであろうか。雨はまだ降っている。車は車を出したのだが、松井氏なんだか元気がない。中島をすぎ、笠師へ出た。笠師→スゲがサ→スゲなど運想し、是非ここは、さがさ

くではと採せば、民家の庭のよほとにオオヒカゲ(カスゲ?)がある。雨の降る中、ひっこくさかせば、オオヒカゲはニツリと笑ったのである。

結局、今回6ヶ所でオオヒカゲを採集し、3種類のスゲ(シカリスゲ(カスゲ?)、ヒヨロスゲ、ヒヨロヒヨロスゲ)を食草として確認することができたのである。次に各々の記録をまとめた。

場所	採集個体	食草	備考
1. 秋田県赤松町一宮	総計 3 exs	シカリスゲ	
2. 秋田県志保町雨谷	総計 10 exs	シカリスゲ	他多数確認
3. 秋田県富田町楚和	総計 3 exs 総計前 4 exs	ヒヨロスゲ ヒヨロヒヨロスゲ	
4. 鳳至郡沢木町越渡	総計 3 exs 総計前 1 ex	シカリスゲ ヒヨロスゲ	他多数確認
5. 鳳至郡門前町山見青	総計 2 exs 総計前 4 exs	シカリスゲ	
6. 横島郡中島町笠師	総計 3 exs	シカリスゲ	

ヨコヤマミダラセリ

採集後期

採集1980年は、ごらんのとおり、オオヒカゲでまとめた。一部重複した内容のものが見られるが、編者の力不足で、調整できなかった。このほか、竹谷氏より中島町小牧台でのオオヒカゲがでてくるはずだったが、編者は待たしにもかかわらず乗稿は出てこなかった。残念。

目次

オオヒカゲ幼虫採集記	嶋田井海部 諸道秀人	1
能登でオオヒカゲ幼虫を採集	松井正人	3
口能登～中能登にかけてのオオヒカゲ飼育	松井正人 嶋田井海部	4
オオヒカゲ飼育結果	松井正人	7
スゲよりヒカゲチョウ幼虫を採集す	嶋田井海部	8
石川県産オオヒカゲに関する文献一覽	嶋田井海部	8
能登オオヒカゲ採集記	ヨコヤマミダラセリ	10

刊 号 19

1980年 10月 25日(土)

発行 : 金沢市三〇新町4-9-34 松井正人方

編集・校正 : 百万石蝶談会
嶋田井海部